



写真_市民や市職員の見送りを受け市役所庁舎を後にする本田市長(中央)

爽やかな秋晴れの空が広がった10月22日、本田市長が任期満了により退任しました。旧遠野市から通算5期19年6カ月、卓越したリーダーシップを発揮し、本市の発展に力を尽くしました。

同日は退任式が市役所本庁舎で開かれ、市職員らの惜しみない拍手を背に庁舎を後にしました。

遠野高、神奈川大卒業後、昭和45(1970)年4月岩手県庁入庁。科学技術振興室長、消防防災課長、工業振興課長、企画調整課長、久慈地方振興局長などを歴任し退任。生まれ育った遠野への思いを胸に市長選に出馬。平成14(2002)年4月25日、54歳で市長に就任しました。平成17(2005)年10月には旧遠野市と旧宮守村が合

併。新市誕生に伴う市長選では無投票当選し、初代市長を4期16年務めました。

厳しくも思いやりあふれる人柄で、市政を牽引。地方分権、人口減少、頻発する自然災害など激動の時代に、▽全国第1号▽どぶろく特区認定▽平成の大合併▽中学校再編▽全国から遠野モデルと称された東日本大震災での「後方支援活動」など数多くの実績を残しました。いずれも、市民の皆さんと共に築きあげてきました。

退任式で本田市長は「20年、あつという間でした。高いハードルがたくさんありましたが、乗り越えられたのは職員、関係機関団体、そして市民の皆さまの力です。心から御礼を申し上げます」と感謝の思いを伝えました。

勇退

本田敏秋市長、飛内雅之副市長

令和3年10月22日付け市職員特別職人事異動



【退任】
飛内 雅之 副市長
(65歳、六日町)

飛内副市長が10月22日、一身上の都合により辞職しました。昭和55(1980)年4月、旧遠野市役所入庁。教育部長、経営企画部まちづくり再生担当部長、産業振興部長などを歴任し、平成28(2016)年4月1日、副市長就任。持ち前の行動力・実行力を発揮しながら、5年7カ月にわたり市の課題の最前線で、市政推進に力を尽くしました。



見送りを受ける飛内副市長

来年4月から変わります

市内投票区(所)再編

市選挙管理委員会は、有権者数および投票事務従事者数の減少などを背景に、選挙時に開設する市投票区(所)の再編案をまとめました。内容を紹介します。

■問い合わせ 市選挙管理委員会事務局(☎62-2111内線116)

再編(案) ▶ 来年4月～ 市内投票所を **36カ所** から **23カ所** に変更

現在(旧)	新	現在(旧)	新
上中宿公民館(1.9km)	綾織地区センター	来内地区コミセン(2.7km)	平倉公民館
山口中央公民館(1.9km)		鹿込地区集会所(2.4km)	
鮎貝地区コミセン(3.8km)	小友地区センター	岩根橋地区集会所(5.1km)	宮守健康管理センター
大出地区コミセン(8.0km)	東禅寺地区コミセン	迷岡地区集会所(3.8km)	
飯豊地区コミセン(3.1km)	土淵地区センター	塚沢構造改善センター(2.3km)	上宮守地区多目的集会施設
中沢公民館(3.3km)	青笹地区センター	上鱒沢地区集会所(3.7km)	鱒沢就業改善センター
細越地区コミセン(3.5km)	上郷地区センター		

※表中の()内は、新投票所までの距離
※コミュニティ消防センターを「コミセン」と省略表記しています

再編の着眼点

- ① 有権者数が200人未満の投票所(昨年9月1日時点)
- ② ▶ 投票所間の距離が近い ▶ 施設が小さい——などの地理的要因
- ③ 5年、10年後に有権者数が200人未満になると想定される投票所

代替措置

- ① 移動期日前投票所を巡回・開設
▶ 廃止する投票所を巡回する「移動期日前投票所」を開設(各所3時間程)
- ② バスで投票当日の移動を支援
▶ 1日2回、新旧投票所をつなぐバスを運行して投票当日の移動を支援

募集

パブリック・コメント

再編案に対する皆さんの意見をお寄せください

投票区(所)再編案に対する意見や提言など、市民の皆さんの声をお聞かせください。

■募集期間 11月4日(木)～26日(金)

■提出方法 下記あて郵送またはメール(様式自由)
あて先/〒028-0592 遠野市中央通り9-1
遠野市選挙管理委員会事務局
メール/ senkyo@city.tono.iwate.jp

走り続け5期約20年 重責を果たし 綴った言葉



【写真】10月21日、
退任を前に市役所
本庁舎において

遠野には「場」の底力

新遠野市の市長として4期16年、旧遠野市長から通算5期約20年。市民の皆さまには本当にお世話になりました。

「国難」とも呼ばれる新型コロナウイルス感染症が猛威を振るいました。任期最後の2年間は、市民の皆さまの「安心安全」「健康と暮らし」を守るため、その対策・対応に全力を上げて取り組んでまいりました。

在任中は平成の大合併、新遠野市としての新たな歴史を踏み出すこともできました。急速に進化する情報通信技術、相次ぐ自然災害、特に「東日本大震災」での市民一丸となった「後方支援活動」。常に真摯・誠実をモットーに取り組んできた課題対応は、思い起こせば本当にさまざまでした。現場主義を基本に、市長と語ろう会や現地視察などに取り組み、また、「公平・公正・公開」の視点を信条としてまいりました。

「進化し続ける」をキーワードに、ふるさと公社の株式会社化など第三セクターの見直しや、市内11地区センターを拠点とした支え合う小さな拠点による地域づくりなど、それぞれの「組織制度」を、いわゆる「第2ステージ」として構築することができました。また、遠野東工業団地には、新たなものづくり拠点構想が示されるなど、一定の道筋も見出すことができました。この道筋を多田市長のもと、新たな道を市民の皆さま共々、力を合わせ創っていただきますように心から願っております。

ある青年が「わらすの時、市長さんに抱き上げていただいたことを鮮明に覚えています」と語りかけてきました。その瞬間、時の流れを感じ、その爽やかな笑顔からは、こうした若い世代が自らの考えと信念に基づき、これからの遠野の地域づくりを担ってくれるものと確信しました。

沿岸と内陸の交流拠点にある遠野。広域連携と市町村間の水平連携を力にしていかなければなりません。古くて新しいものは光り輝く。遠野には「場の力」があります。自然・歴史・文化・風土など誇るべき豊富な地域資源があり、遠野遺産は166件に及びました。これらは、遠野の「底力」であります。この力を遠野スタイルとしてさらに磨きをかけ、進化創造発展させてまいらなければなりません。

在任中何度となく語ってきた幕末の思想家・吉田松陰の言葉。

「夢」なき者に理想なし、
理想なき者に計画なし、
計画なき者に実行なし、
実行なき者に成功なし。
故に、「夢」なき者に成功なし。

これを胸に、遠野の夢、未来の姿を思い描きながら市政運営を進めてまいりました。

市政課題に熱い想いを交わした市議会、関係機関団体の皆さま、時には、深夜まで議論を交わした市職員の皆さん。

「遠野には心の世界が残っている・過去を学び・今を考え・未来を想像する」

世界的建築家・安藤忠雄先生から寄せられたこの言葉を、これからの遠野市のさらなる発展のため、市民の皆さま共々大切にしたいものです。

約20年、本当にお世話になりました。
ありがとうございました。

本 田 敏 秋

